

乾式間仕切りケーブル 横断部の保護



米沢電気工事株式会社 東京支店

動機・ねらい

乾式間仕切り部分のケーブル横断部の保護の省力化且つ、絶縁不良等の品質確保をめざす



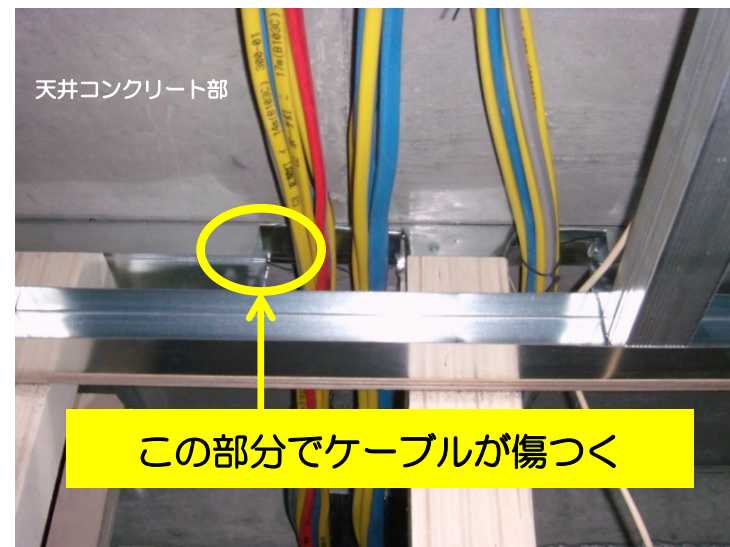
現状と問題点

現状

間仕切り部分のケーブル貫通部の保護は、ランナーを切断及び折り曲げた上で、ケーブルを貫通させ、状況によりさらに貫通部分にはコルゲートチューブ等の保護材を設置している。



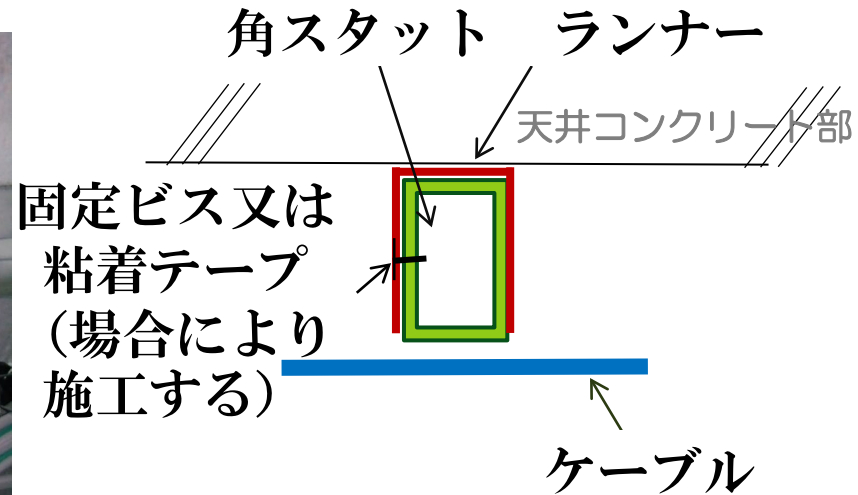
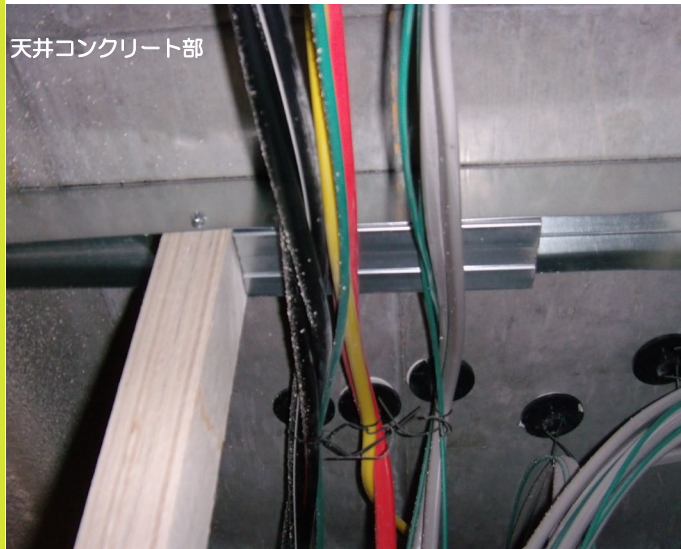
- ⦿ 施工する作業員により、施工にバラツキが出てしまう
- ⦿ ランナー加工不足によりケーブルが傷つく場合がある
- ⦿ 脚立上でのランナー加工作業に時間がかかるので、転落等の危険が増す



改善事項

改善

ランナーの加工を実施せず、ランナーに角スタットの廃材を差し込むことでランナー端部のケーブル接触を無くし、ケーブル貫通作業を行うことができる



効果

- 😊 ランナー端部との接触がなくなるため、ケーブルが傷つかない
- 😊 作業員による施工のバラツキが出ない
- 😊 ランナーを差し込むだけなのでランナー加工、ケーブル養生の作業時間の短縮がはかれる
- 😊 脚立上でのランナー加工作業が少なくなるため、作業の安全性が増す

問題点

遮音壁での貫通の場合は、ボードを一部欠き込む必要があり、ボード張り作業員に協力してもらう必要があります。

また、天井コンクリート付近のボード欠き込みが通常より大きくなる為、貫通部分の処理方法を建築主等に事前に確認・承認をもらう必要があります。

施工事例

今回は今年1月に竣工した現場で一部実施致しました。

先ほど述べた問題点でも遮音壁でのボードの欠込みの関係で遮音壁以外で実施しました。

横断部をたるませる事でケーブルとランナーが接触しなくなりますが、ランナーとどうしても近接する場所が出てくる為、この工法を行うことで絶縁不良の心配がなくなりました。

まとめ

この工法は金属部とケーブルが直接接触するため、嫌う担当者もいましたが、ランナーと角スタットを固定する際、バリアテープを貼りつけることでその問題も解決しました。

今後は先に挙げた問題点も一つずつ解決していき、この改善事例をもっと活用していける様努めて参ります。

